

平成29年度 学校自己評価

4:十分できている 3:おおむねできている 2:あまりできていない 1:できていない、改善を要する 未記入:直接担当していない職員等で判断が困難 黄色:1+2⇒30%以上(要検討項目)

評価項目	目標	4	3	2	1	未記入	課題と改善策
1 西神戸ドリカムプラン (個別の教育支援計画)	生徒の障害の状態や保護者のニーズを的確に把握した個別の教育支援計画を作成する。	4.5%	50.0%	27.3%	4.5%	13.6%	実際に活用できるものにするのが課題。記入項目の再検討が必要である。
2 西神戸ドリカムプラン (個別の指導計画)	生徒一人一人の実態把握から評価まで、主担任および副担任、教科指導担当者等で共通理解を図りながら個別の指導計画を作成する。	0.0%	63.6%	22.7%	0.0%	13.6%	教科間の共通理解に活用できるものにするのが課題。授業計画と授業づくりについて整合性を図っていくことが必要である。
3 専門教科の指導	3年間を見通した系統性のある専門教科のシラバスを作成し、計画的に学習を進める。	4.5%	31.8%	45.5%	4.5%	13.6%	シラバスの改善が課題。担当者の組織的な取り組みが必要である。
4 教科等を合わせた指導	シラバス作成を通して、指導内容の確立と評価の観点の関連を整理する。	9.1%	40.9%	36.4%	0.0%	13.6%	シラバスの改善が課題。指導内容の確立と評価の観点の関連の整理を継続的に実施する。
5 授業づくり	学習内容や教材提示を工夫し、個々の生徒の興味関心および学習課題に即した分かる授業を展開する。	18.2%	59.1%	9.1%	0.0%	13.6%	授業間の横の連携が課題。シラバスづくりの改善と研究授業の実施を行う。
6 道徳・人権教育	生徒の身近な問題から人権を相互に尊重し合う態度を育てる。	13.6%	54.5%	18.2%	0.0%	13.6%	授業計画の中に明確に位置付けていくことが課題。シラバスの改善と教員研修の実施をおこなう。
7 交流及び共同学習	学校園や地域との交流を積極的に行い、コミュニケーション力や社会性、仲間と協働的に取り組もうとする態度を育てる。	27.3%	50.0%	9.1%	0.0%	13.6%	相手校の指導目標と本校の指導目標とのすり合わせを行い、授業内容について深めていくことが必要である。
8 図書館利用環境の整備	ゆとりのある快適なスペースを確保し、生徒が活用しやすい環境を整える。	0.0%	50.0%	36.4%	9.1%	4.5%	図書の購入を経て、管理システム、校内担当者の確保、生徒の委員会活動の開始など、本格的な取り組みを行う。
9 ICT教育の充実	適切なICT機器を導入したり、実践に即した研修会を実施するなどして、効果的な授業を展開する。	9.1%	50.0%	31.8%	4.5%	4.5%	ICT機器の導入時期が遅かった。次年度早期にiPadを導入し授業での活用を促進する。
10 特別活動(生徒会活動、部活動)	生徒会活動や部活動に積極的に取り組み、リーダーシップを発揮したり、他者と協調したりする態度を育てる。	4.5%	59.1%	22.7%	0.0%	13.6%	初年度ということもあり、生徒会は30年2月に発足した。スポーツ祭や、西神戸祭で生徒中心で行事を進め、生徒が主体で行事を運営する気持ちが高まってきている。今後生徒会主体のルール作りなどを通して中身を充実させていく。
11 生徒指導	いじめや問題行動について、教員間で情報共有を図りながら、未然防止や早期発見・早期対応に取り組む。	0.0%	63.6%	18.2%	4.5%	13.6%	生徒間のトラブルが起こった時は、丁寧に聞き取りと指導を行った。生活(いじめ)アンケートやいじめ対策委員会の定期的な開催等を通して、教員間で情報共有を図りながら、未然防止や早期発見・早期対応に取り組む。
12 生徒の実態把握	保護者との懇談や中学校担任との連絡会等を通じて、生徒の障害特性の理解と情報共有を図る。	9.1%	72.7%	9.1%	0.0%	9.1%	保護者懇談会や中学校担任との連絡会を通して、生活実態や障害の状態など生徒の課題把握や指導の手立ての検討につながった。学年会等を活用し教員間で情報共有を図ることが課題である。
13 校内支援委員会	委員会において、生徒に対する指導方針の共通理解を図り、また多面的な支援方法を模索することで支援の充実を図る。	27.3%	27.3%	27.3%	4.5%	13.6%	生徒指導上の問題が起きた時に、指導と支援の両視点で指導内容を検討した。不登校問題等に関しても繰り返し校内支援委員会を行い、生徒の現状について共通理解を図った。生徒指導上の問題への働き掛けと、不登校や障害からくる困難さへの支援との整理が課題である。
14 保護者支援	日常の連絡や個別懇談会、進路説明会等において、保護者のニーズを把握し、保護者に寄り添った態度で丁寧かつ誠実に対応する。	18.2%	50.0%	22.7%	0.0%	9.1%	生徒の変化や、保護者と共有しておかなければ事柄については電話連絡や個別懇談会等において説明を行った。また、課題に対しては共に指導を行っていく姿勢で対応した。教育相談等もしっかり機能し、保護者に寄り添った支援を行うことができた。
15 安全教育	学習や労働環境における事故を防止し、事故や災害の際に自他の命を守ろうとする意識を育てるため、安全教育や避難訓練等を充実させる。	22.7%	63.6%	4.5%	0.0%	9.1%	日常の登下校や学習場面における安全指導、LHRでの心肺蘇生法実習、地震・火事・Jアラート避難訓練等を繰り返し実施することで、生徒の危機管理能力、実践力を高めることが課題である。関係校務部と学年、授業担当者が連携し計画的に取り組む必要がある。
16 安全管理	定期的な安全点検の取り組みにより環境の保全に努めるとともに、危機管理マニュアルの作成や緊急対応シミュレーションの実践により危機対応技能を高める。	27.3%	54.5%	13.6%	0.0%	4.5%	危機管理マニュアルの作成については、全員で役割分担して作成することができた。しかし、安全点検に全員が取り組めていない月があった。全員実施、全員提出を促進する手だてを工夫し、安全な環境の保全に努めたい。
17 保健教育	保健指導や保健学習を通じて、心とからだの健康と成長をはかり、健康を維持管理できる力を育成する。	27.3%	54.5%	4.5%	0.0%	13.6%	保健指導および保健学習の成果と課題を、授業担当者以外の者と共有していく工夫が必要であった。次年度から、振り返りシート等の成果物を回覧し、指導方法や学習結果が共有できるように努める。
18 保健管理	健康診断の実施や診断後の対応、傷病の処置や対応、学校環境衛生等の維持に努めて、健康かつ安全な環境をつくる。	27.3%	54.5%	9.1%	0.0%	9.1%	定期健康診断や学校環境衛生検査の結果を踏まえて、速やかに事後措置に取り組み、生徒の健康課題の解決や学校環境の整備を進めてきた。今後とも、家庭や専門機関と連携強化を図り、生徒の心身の健康を推進し成長につなげていきたい。
19 進路指導	生徒の興味・関心、適性に応じて進路選択ができるように、進路講演会やガイダンスを実施し、進路選択に必要な情報を継続的に提供した進路学習を推進する。	36.4%	36.4%	13.6%	0.0%	13.6%	生徒・保護者の実習への意識を高めるため、1年生における進路ガイダンスの機会をより多く取り入れる予定である。また、企業や施設の見学会も増やして計画的に取り組んでいく。
20 実習・進路先開拓	労働機関や福祉機関とも連携し、トライやるJOBや現場体験実習を充実させる。	31.8%	40.9%	18.2%	0.0%	9.1%	実習先の開拓は順調である。一方で、職種の偏りに課題があり、今後、物流業や製造業、飲食業などの分野にも拡大する必要がある。また、企業に対して学校見学会や説明会等も計画していきたい。
21 キャリア教育の推進	キャリア発達段階表を踏まえて、実習を中心とした企業との連携による西神戸版デュアルシステムを展開し、コミュニケーションや協調性、職業意識を高める。	13.6%	59.1%	13.6%	0.0%	13.6%	実習を重ねる中で、キャリア発達段階表の中核にあたる基本的な生活習慣や対人関係等で課題が表面化し、就労意欲や支援力などの重要性が再認識できた。発達段階表を活用し、一層のキャリア教育の推進に努めたい。
22 地域連携	学校園や関係機関と情報交換する機会として学校見学や教育相談等を行うとともに、実習等で地域資源を活用し、生徒や保護者のニーズに応じた支援を進める。	13.6%	59.1%	13.6%	0.0%	13.6%	トライやる・JOBでは、地域企業に広く協力をいただいた。次年度からは、地域に開かれた専門教科学習として、2年生が西神中央駅付近の施設等で、職業コースで学んだ内容を実践につなげる取組を実施していく。
23 情報発信	ホームページを充実させ、行事や授業の様子をブログを通して広く情報発信を行う。学年通信等を通して保護者に教育活動の情報発信を行う。	40.9%	40.9%	9.1%	0.0%	9.1%	様々な団体や個人より、ホームページが見やすいという評価をいただいている。課題は、ブログ以外の学校概要の部分で、具体的な学校生活を紹介する情報が不足しており、今後コンテンツを充実させていきたい。
24 専門性の向上	夏季休業期間を中心に、講師・日程等を調整し、必要な研修を企画・運営する。	9.1%	54.5%	18.2%	9.1%	9.1%	予定通り、入学相談の期間を除く夏季休業を中心に研修会を設定することができ、ケース検討について具体的な助言を受けて支援につなげることができた。今後も継続して取り組んでいく。
25 外部講師の活用	外部専門家を活用した実態把握、指導方法・内容の検証に取り組む。	0.0%	45.5%	40.9%	0.0%	13.6%	限られた予算の範囲内ではあったが、個々の課題に向き合うカウンセリングや生徒の職業観を高めるウォームアップ講座、職員の専門性を高める研修会など多岐に渡って行うことができた。
26 開かれた学校づくり	オープンスクール、学校説明会等、保護者向けの授業参観日等を設定する。	27.3%	40.9%	22.7%	0.0%	9.1%	オープンスクールなどを通じて、保護者や特に中学生やその保護者へ本校の様子を知ってもらう機会となった。地域の方が来校してもらうために広報していくことが課題。
27 勤務時間の適正化	会議、委員会を効率的に運営するとともに、業務の効率化を図って定時退勤を推し進め、過重労働を縮減する。	27.3%	36.4%	27.3%	9.1%	0.0%	職員会議のペーパーレス化に続いて、学年会等の会議においても、パソコン・プロジェクトを活用するとともに、必要資料の事前配布など会議時間の短縮に努める。